

キャリア教育における 職業レディネス・テスト

～現在地を「見える化」して過去と未来を繋ぐ～

東北公益文科大学 キャリア開発センター長

松尾慎太郎

1 導入の経緯及び目的

本学では、2019年度より職業レディネス・テストを導入している。職業レディネス・テストを導入するに至った経緯には、学生との対話を通じて共有された問題意識が大きく関係している。

就職活動において学生は、「自分が何に興味・関心を有しているのかわからない」「自分がどのように働きたいのかわからない」といった悩みを抱えるケースが多い。このような悩みは、一見すると自己分析の問題と考えられやすい。しかし、学生と対話を重ねる中で、どのような職業があるのかに関する知識が不十分であること、及び社会人がどのように働いているのかについてのイメージが十分にできていないことが問題の本質であるとわかった。このことは、学生に対して職業そのものに関する情報が十分に提供されていないことを意味する。この点について、職業レディネス・テストは、「職業興味(RIASEC)別リスト」と「基礎的志向性(DPT)別リスト」(図2)に整理した2種類の職業リストが用意されており、自身の興味と関連のある職業にはどのようなものがあるのかを知ることで、職業選択への関心を拡げることができる有用である。

就職活動を含むキャリア形成において、自己分析と職業研究は、車の両輪に例えられる。確かな情報に基づく幅

広い選択肢のもとで自己分析と職業研究を行っていくことが、納得のいく就職活動やキャリア形成において肝要であると考ええる。幅広い選択肢を提示し、自らのキャリア(職業観・就業観)を考える機会の提供を目的として、職業レディネス・テストを導入した。

2 活用場面及び使用効果

本学では、一人ひとりの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる知識の獲得と態度の醸成を通してキャリア発達を促すため、1年次と2年次にキャリア科目を必修化し、様々なキャリア・サポート・プログラムを展開している。

職業レディネス・テストは、1年生を対象にした「キャリア入門b」で実施している。「キャリア入門b」では、職業興味と自己理解に基づき、大学生生活を充実させるためのアクション・プランを立てることを目標としている。学生には、職業レディネス・テストを通じて職業興味と自己理解を深めてもらい、身近な先輩学生による講話を通じて大学時代をどう過ごすかについてのアクション・プランを考えてもらう。これらの学修を通じて、学生が自ら立てたアクション・プランに基づき、学内・学外の様々な活動に主体的に参加できるようにすることが望まれる。

職業レディネス・テストの結果を分析する際、学生には以下の2点について留意してもらっている。1点目は、

検査結果の背景にある過去に目を向けることである。検査結果は、自身の興味や自信、志向性を「見える化」してくれる(図1)。そのため、結果のみをそのまま受け入れがちである。しかし、重要なことは興味や自信、志向性が形成されたプロセスである。なぜそのような結果が得られたのかについて、過去の印象に残っている出来事や転機となった事柄と照らし合わせて、能動的に(時には批判的に)結果の分析を行ってもらっている。

2点目は、検査結果を踏まえた未来に目を向けることである。前述したように、職業レディネス・テストの導入は、幅広い選択肢を提示することも目的としている。MY職業リストの書き出しにあたっては(図2)、既に知っている職業の中だけで考えず、候補となっている職業について、厚生労働省によって開発・運営されているウェブサイトである「職業情報提供サイト(日本版OINET)」で確認してもらっている。職業情報提供サイトは、「ジョブ(職業、仕事)」、「タスク(仕事の内容を細かく分解したもの、作業)」、「スキル(仕事をするのに必要な技術・能力)」等の観点から職業情報を「見える化」している。MY職業リストの候補になっっている職業では、どのような仕事内容・作業が一般的に行われ、どのようなスキルや知識を持った人が働いているのかを調べてもらい、スキルの獲得に向けてのアクション・プランを



図1 興味と自信及び志向性の見える化

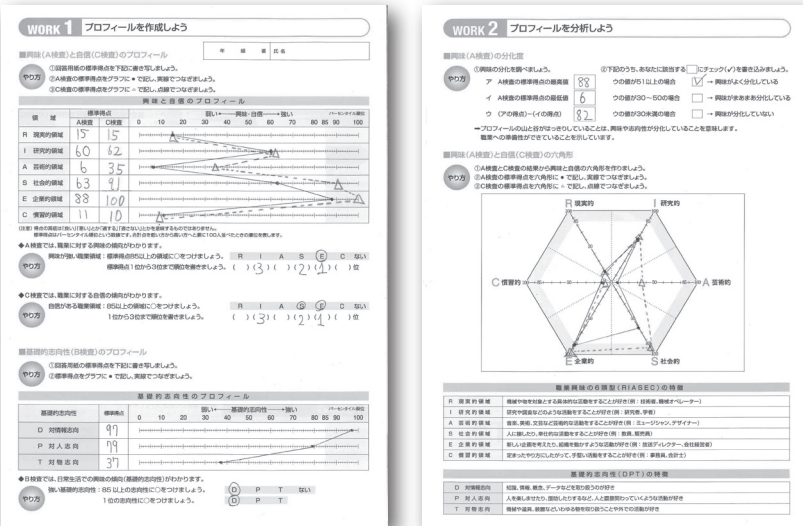
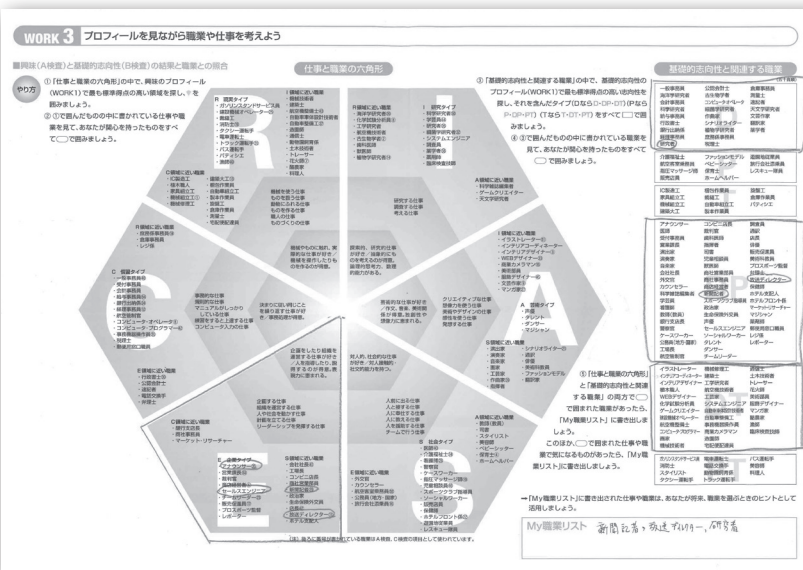


図2 2種類の職業リストとMy職業リスト



考えてもらっている。結果を返却した際、ほんやりとしていたイメージが「見える化」されたことで、自身のキャリアとの向き合い方が変わったという反応が多く見られた。自身の関心のある職業や方向性について具体的に考えることができて、学生の中には、検査結果から示される職業リストの中にその職業があることで自信が高まったという反応も見られた。職業レディネス・テストの受検は、学生にとって良いきっかけとなり、自らのキャリア(職業観・就

業観)を考える機会の提供という目的は達成されているように思われる。

3 今後の課題と展望

近年、学びを自身のキャリアや経済・社会の発展にどう活かしていくかを考えるために、キャリア教育を全国の大学で実施すべきとの指摘がある。2022年1月18日に日本経済団体連合会が公表した「提言 新しい時代に対応した大学教育改革の推進―主体的な学修を通じた多様な人材の育成に向けて―」において、「経済界としても、

入学後のなるべく早い時期から、キャリア教育を受ける機会を提供することが重要であると考え、大学との連携のもと、教育コンテンツの提供や企業人の講師派遣などの、学生のキャリア形成支援に積極的に協力する」とされている。職業レディネス・テストの受検と検査結果の分析によるキャリアに対する意識の向上を一過性のものとし、報提供を行うプラットフォームの整備に産官学が連携して取り組み、キャリア教育の拡充が重要であると考え

2022年度、本学では初めて1年に職業レディネス・テストを受検した学生が4年生となる。学生のキャリア選択の幅が広がっていることを願っている。今後も職業レディネス・テストの継続した実施により、自らのキャリア形成について考える機会を提供したい。そして、就職活動を終えた4年生や卒業生から1年生に対して、職業レディネス・テストの結果を踏まえたキャリア選択に関するアドバイスが行われるような好循環をキャリア教育の中で生み出していきたい。